

歴史・文化サイトカード

通しNo.		1-C-9		更新日		2025/2/20	
サイト名		古代出雲王の巨大な四隅突出型墳丘墓～西谷墳墓群 よすみとつしゅつがたふんきゅうぼ にしだにふんぼぐん					
基本情報	区分	☐ 有形 ☐ 無形 ☒ その他					
	所在地	出雲市大津町2760番地					
	指定別	「西谷墳墓群」国指定					
	種別	史跡名勝天然記念物					
	指定／登録年月日	2000(平成12)年3月30日					
	管理団体／モニタリング	出雲市					
	周辺施設／アクセス	☒ トイレ ☐ 売店 ☐ 飲食店 ☒ 駐車場(台)					
	留意点						
サイトの解説	歴史・文化	西谷墳墓群は、弥生時代後期から古墳時代、そして奈良時代にかけて造られた墳墓群で、墳丘を持つ墓だけでも27基が密集し、特に弥生時代後期～終末期に造られた6基の四隅突出型墳丘墓は、当時の出雲最大の権力者たちの墓として全国的に有名である。 長い年月の間にさまざまな種類の墓が造られ、弥生時代後期～終末期には四隅突出型墳丘墓が、古墳時代の前半には「古墳」が、古墳時代の終わりごろには「横穴墓」が造られている。奈良時代にも横穴墓への埋葬が行われたほか、火葬墓も造られた。 西谷墳墓群の中で特に巨大な規模を持つ2号墓、3号墓、4号墓、9号墓は、弥生時代に出雲を支配した王たちの墓と考えられる。 四隅突出型墳丘墓の墳丘はいずれも斜面が貼石でおおわれ、墳丘の裾には石敷きや石列がぐるりとめぐっていた。弥生時代としては、全国トップクラスの壮大な王墓である。 弥生時代には、九州北部から稲作が伝わり、海面の上昇と低下でできた低湿地では水田が営まれ、出雲平野でも農耕を営むムラが急激に増えていった。 また、当時の出雲平野は、日本海交流の重要拠点であり、北部九州に次いで朝鮮半島の遺物が出土する地域である。西谷墳墓群に埋葬された「王」は、このように発展しつつあった農業生産と日本海交易を背景として成長した出雲平野集団のリーダーの墓であったと考えられている。					
	地形・地質、生物・生態等	出雲平野や斐伊川を見渡すことのできる標高40m前後の丘陵地に古墳群が造られている。この丘陵は、更新世に河口付近から湖岸域にかけて堆積した砂礫層よりなる段丘堆積物で山廻層とよばれる。なお、三瓶木次軽石層に覆われているため、11万年より古いことは明かであるが、詳細な堆積年代については未詳である。					
写真・図等							
		2号墓		3号墓			
参考文献							